

令和6年度 海洋スポーツセンター事業報告書

海洋スポーツセンター長 中村 夏実

I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 海洋スポーツの普及を目的に、関連公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. セーリング競技における競技力向上に関連する大会開催および強化合宿を開催した。
4. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第30号を発刊した。

II. 事業報告

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

（1）指導者育成

潜水士の資格取得を推奨した（2名取得）。船舶免許の取得希望者は0名だった。

（2）近隣小学校の海洋スポーツ体験（主担当 中村）

令和4年度より鹿屋市立野里小学校と連携し、大学生指導実習授業との合同で実施した。
令和6年度は全4回（1回目：事前学習「安全」、2～4回目：ヨット、カヌー、SUP体験）を実施した。

（3）海洋スポーツの教育効果に関する調査（主担当 笹子）

国立大隅青少年自然の家「海からのメッセージ」事業に研究協力し、活動中および宿泊時夜間の体重変動と水分摂取の実態について調査した。

2. 研究プロジェクト

（1）生涯スポーツとしてのSUP（スタンドアップパドルボード）の効果に関する研究

（主担当 中村）

公開講座「中高年齢者のため SUP 健康教室」を対象として、SUP の運動効果を検証し、介護予防・健康運動学会にて口頭発表した。

（2）カヌースプリント競技・ボート競技の競技力向上に関するパフォーマンス研究

（主担当 中村）

選手個人が取り組むパフォーマンス研究を支援し、U23 日本代表選手2名を輩出、全日本大学選手権や全日本選手権で上位入賞を果たした。

（3）セーリング競技における基礎研究の推進（主担当 榮樂・笹子）

パフォーマンス研究に取り組み、ヨット1件、ウィンドサーフィン1件が学術誌に掲載された。

3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

（1）学長杯オープンヨットレース（主担当 榮樂・笹子・坂口・中村）

令和6年8月25日に、第32回大会を実施した。

（2）カノヤカップヨットレース大会協力（主担当 榮樂・坂口）

令和6年8月24日に開催され、大会運営に協力した。

(3) 公開講座（主担当 中村・榮樂・笹子・坂口）

①公開講座A：楽しいマリンスポーツ

令和6年4月14日（日）～5月19日（日）の期間で半日講座を計5回実施した。

4月21日は荒天であったため、5月26日に延期開催した。

②公開講座B：楽しいスキューバダイビング（初級者編）

令和6年5月15日（水）～6月30日（日）の期間で、プール7回（水曜日10時～11時30分）の講座を実施した。6月30日は海での活動を予定（9時～16時）したが、荒天となったため、7月15日（日）に延期して実施した。

③公開講座C：少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ

令和6年8月6日（火）～8月8日（木）の2泊3日で、小学3年生から6年生を対象としたマリンスポーツ体験を実施した。宿泊は国立大隅青少年自然の家であった。

④公開講座D：中高年齢者のためのSUP健康教室

令和6年5月10日（金）～8月23日（金）の期間で、1回週（金曜日17時30分～19時）の全14回の講座を実施した。なお健康教室期間の前後で、体力測定を実施した。

(4) マリンフェスタ in かのやへの協力（主担当 中村・坂口・榮樂・笹子）

令和6年7月14日（日）にマリンフェスタ in かのやが開催され、マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担った。また、ヨット部・ウィンドサーフィン部・カヌー部・漕艇部の学生と、関連ゼミ生が運営と安全管理に尽力した。

(5) 国立大隅青少年自然の家との事業協力（主担当 中村・笹子・榮樂・坂口）

継続事業である「海からのメッセージ」事業について、研究協力（上述）に加え、安全管理および海洋スポーツ体験に協力した。

4. その他

(1) 協力者会議の開催（主担当 中村・榮樂）

テーマを「海洋スポーツ教育におけるマルチスポーツとピアサポートの効果的展開」とし、令和6年12月3日に開催した。

(2) 卒業生の海洋スポーツ活動状況調査（主担当 笹子・榮樂・中村）

卒業後の活動状況に関する調査を依頼し、その動向をまとめて海洋スポーツ研究第30号にて報告した。

(3) 競技スポーツにおける試合・合宿への協力

競技力向上に関する支援事業として、2024年度九州学生ボードセーリング選手権大会の運営協力、およびセーリング強化合宿（1件）を実施した。

(4) 外部団体海洋スポーツ体験の受け入れ

学校、福祉団体等、外部団体の教育的効果を目的とした海洋スポーツ体験等を全4件受け入れ、海洋スポーツの体験指導や安全管理のサポートを行った。

Ⅲ. 決算報告（附属施設経費（海洋スポーツセンター経費）2,050千円）

1. 教育プロジェクト 0千円

区分	金額	算出内訳
人件費	0千円	—

物件費	0 千円	—
その他	0 千円	—

2. 社会連携・社会貢献プロジェクト 99 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	43 千円	学長杯ヨットレース学生アルバイト
物件費	56 千円	消耗品費 等
その他	0 千円	

3. その他 1,951 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	0 千円	—
物件費	1,861 千円	燃料費、保守・修繕費、修繕関連消耗品、印刷製本費、その他管理運営費等
その他	90 千円	協力者旅費

IV. その他

1. 発刊物

海洋スポーツ研究第 30 号

2. 開催会議状況

協力者会議を令和 6 年 1 2 月 3 日に開催した（Ⅱ. 事業報告 4 その他（1）記載）。

3. 広報活動

海洋スポーツセンターのホームページの原案を作成した。

4. センター利用促進策の成果

令和 6 年度の利用者総数（のべ人数）は、4703 名であった。利用者総数減となった令和 5 年度（3,519 名）と比較して 1184 名増加、令和 4 年度（5,109 名）に近づいた。

5. その他

特になし